

## トイレの神様



「トイレの神様」(歌手・植村花菜) 紅白初出場！

そのニュースを耳にした時は、「トイレの神様を拝めば、病気は完治、金運もグングン上昇！」といった「御利益歌謡曲」かと、少々うがった見方をしておりました。

そして迎えた大晦日の紅白歌合戦。  
初めて聴きました。

ちょ～～～ 感動しました!!  
(巨大な鶴に乗っていた某歌手とは違って...)

## 嘘も「方便」

曲の内容は、歌手・植村さんとおばあちゃん（母方の祖母）との2人暮らしを回顧したものです。

小学3年生から祖母宅で暮らすようになった植村さんは、おばあちゃんから「トイレには神様がいる」と教わりました。

トイレには  
それはそれは キレイな女神様が いるんやで  
だから毎日キレイにしたら  
女神様みたいに ベっぴんさんに なれるんやで

それを信じた植村さんは、それから毎日、苦手なトイレ掃除に頑張ります。「ベっぴんさん」になりたい一心で。

小学校の同級生からは、「トイレに神様なんかいるわけじゃないか〜。おまえのおばあちゃん、トイレ掃除をさせたくて嘘ついているんだよ〜」と言われます。

高校生になっても、学友から同じことを言われます。

しかし植村さんは「神様はいる！」と信じて、トイレ掃除に励み続けました。それが「トイレの神様」という大ヒット曲につながります。

世の中、「理屈」が先行しています。

「なぜトイレ掃除しなきゃいけないの？」と子供が聞いてきたら、どう返すか？  
「トイレをキレイにするのは当たり前でしょう、さっさと掃除しなさいっ！」  
およその返事ではないかと。

太田東西が「トイレの神様」の歌に感動したのは、おばあちゃんの「知恵」に感銘を受けたからです。

トイレ掃除が苦手な孫を、どうやって掃除好きに変えるか？

どうやって、教え導くか？

おばあちゃんはその夢のある「方便」を使ったのです。

その孫もまた素晴らしい。

他人から批判・否定されようとも、おばあちゃんを信じて、一つのことを貫く愚直な信念。「目に見えない神様」を受け入れる感性。

見習いたいものです。

## おばあちゃんは「安心の基地」

トイレの神様、いるのか？いないのか？

唯物論者は「いない！」と断言するでしょう。「いる！」という相手に対しては「ならば科学的に証明して見せろ！」と反論するでしょう。

「トイレには女神様がいる。」

それは非現実的、嘘かもしれません。

しかしその教えには、祖母から孫への深い「愛情」があります。

相手を良い方向に導くための嘘は、嘘ではなく「方便」です。

昨今、その「方便」を使えない、不器用なお母さんが目立ちます。

子供のやる気を引き出す「方便」を使えずに、イライラしてしまう…。

子育ての情報はインターネットでたくさん得られても、子育ての問題を具体的に解決する「知恵」を得ることはできません。

方便の源である「知恵」は、人と人との関係、コミュニケーションの中でしか体得できないものです。

その植村さん、さぞかし家族の愛情をたっぷり受けて育ったのかと思いきや

「おばあちゃん子」の影には、悲しい生い立ちがありました。

4人きょうだいの末っ子で生まれる。1歳の時に両親が離婚。母子家庭で育つ。

8歳から祖母との2人暮らしが始まり、その関係は良好だったものの、実家はケンカの絶えない毎日。無神経で気の強い母親に反抗する兄。無関心でマイペースな姉。

怒鳴り声、物が壊れる音。母親の家出、一家離散。

植村さんは子供の頃、「なぜこんな家に生まれてきたんだろう、もっと幸せな家がよかった…」といつも思っていたそうです。

家族間で暴言が飛び交い、ケンカが始まる度に、それを止めようと歌をうたっていました。しかし、それが音楽の道に進むきっかけにもなります。

辛い思いをしてきた彼女が、前向きに頑張っ生きてこられたのは、なぜか？

それはきっと、おばあちゃんという「安心の基地」があったからでしょう。

辛く寂しいながらも、安心できる「居場所」があった。

「音楽で家族をひとつにしたい」 植村さんの思い、カッコいいですね！

「漢方で家族をひとつにしたい」 太田東西のそれと同じでした。

## 1 か月ぶりの東京

「やめよう とめよう児童虐待」(日本子守唄協会主催)

その講演が東京であると新聞で目にしたのが講演会の2週間前。

「これは何としても聴講に行かなきゃ！」と、妻に店番を頼み、上京を決意。

講演会は12月15日。おっ、その日は父親の誕生日ではないか。

そうだ、オヤジも連れて行こう。

東京の息子にも声をかけて、男3人で誕生日会しよう。

そんなこんなで結局、講演会には

『太田家3世代(祖父 父 息子)』で参加。

周りは女性がほとんど。目立つ目立つ...(汗)

しかし、「家族とは何か」「子育てに大切なものは何か」をテーマにした講演を3世代で聴講したという事実は皆さんに自負したい!

そして「母性」の必要性を改めて確信した。



その夜、息子のアパートでささやかな祝宴。

「孫」が用意していたケーキを見た「祖父」の目はウルウルしていた。(トイレの神様、太田家バージョンか?)



狭い部屋で、男3人、3世代でザコ寝した。

講演会で買い求めた子守唄のCDを聴きながら...

ね~むれ~ ね~むれ~ 母のむ~ね~に~

オヤジはすぐに眠りについてた。

新宿歌舞伎町で飲み歩くこともなく、子守唄を

聴きながら、男3人眠りにつくとは...

なんと、おりこうさんでしょう(笑)



今年から太田東西は、「児童虐待防止」にも動きます!

白衣の「オレンジリボン」はその誓いです。